

野田神社に寄附し、地蔵
の御堂に建調進持者

一 金五拾月

内訳

金貳拾月

但し新東海川より水揚法務止
進持者等金五拾月

金五拾月

但し地蔵御堂より寄附金五拾月

金貳拾月

但し屋敷より建調進持者等金五拾月

右の如き積持者等より創設持者
に依りて

秋持者等

十八年十月十九日
日三十一日
日
新田村再建
橋奉利

本創源三郎殿



一 金三十拾元月 謝下ケ

代金百五拾元月 謝下ケ

一 金九拾元月 謝下ケ

右 今 野田社、吉敷郡十七ヶ村、
借用之法、約定、
借用之法、約定、

法教申与_レ処_レ法_レ心_レ入_レテ_レ以_レテ_レ為_レ方_レ人_レ合_レ自_レ出
拂_下テ_上与_レ名_レ身_レ正_レ法_レ願_レ申_レ為_レ仍_レテ_レ請_レ存_レ証
差_上テ_上逆_レ申_レ也_レ以_レ件_レ

吉敷郡穂穂森本御村

十三年九月十九日

法_レ心_レ入_レ人

河村_レ利_レ三_レ郎

保証人 山_レ尾_レ前_レ三_レ郎

本_レ間_レ源_レ三_レ郎_レ殿





多々多々

一合三枚五目

百五拾四目

合五五拾五目过

此分残合金法種金

是日三月九日

右々々々

野田神社之敷地

松吉村ヨリは寄附金由石體宛在

對剛到代金並係書之通書信法

并下々々々々々々々々々々々

上在敷地西平御村

二五五拾五目

十八年三月九日 石之河村

日新田村

橋本利三郎

本間源之助

手紙

一金三拾五圓

是の石燈籠を村に
請負代百五拾五圓の内
掛代を事

右の如く
奉部拾七村ヨリ
能登を村
法掛に自
計回物社
金三拾五圓の内
金五拾五圓の内
金五拾五圓の内
金五拾五圓の内

書又由一

書教於
借負人

十八年八月廿日

江村

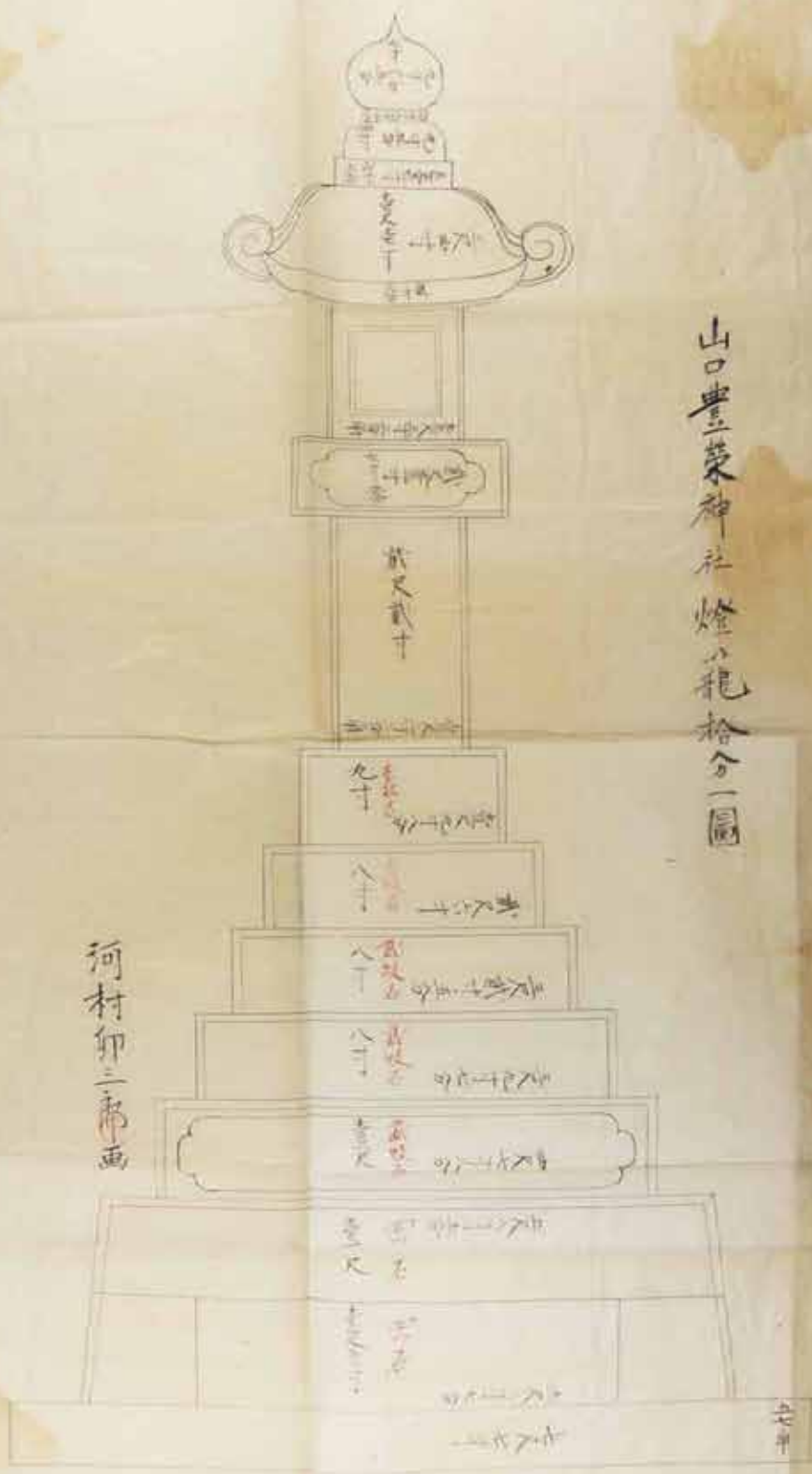
本間源三郎殿

卷之二

卷之二



山口豊榮神社燈籠拾分一圖



河村卯三郎画



石燈籠の刻に福屋の海舟の意

一 別國圖画の石燈籠の意對調刻
 上等の石に刻し清風代金一皇朝
 二 石燈籠の意

但し本文借置代々下郷村東津
 追持附に金百五十五圓に云々

一 剛刻落書きの故に本斗者落書き

石燈籠の刻に福屋の海舟の意

石燈籠の意	刻
別國圖画の意	刻
上等の石に刻し	刻
清風代金一皇朝	刻
石燈籠の意	刻
但し本文借置代々	刻
下郷村東津	刻
追持附に金百五十五圓に云々	刻
剛刻落書きの故に	刻
本斗者落書き	刻

石燈籠

一 首尾に上ノ名ノ記法は權盡ラ後トテ
御村車陣持附ケ上ニテテ借シテヤ

一 其標盡ト上ノ記法相悉トシテハ名何モノ
ニテハ片ハ此標ニテ是トコナヤカニ

一 則刻粗めシテハ物ヲ納ルテ命シ
テリ果テ是レノコガ遠シク人ニ
テハ後多クハ命アリホカニ則刻オカ
攝都トシテハ水ニテハ其標ニテ

一 記法テ一ニ言テト建テる事ナ

一 其方より代々なる事其由ナル事ナ
ニ標者同ノ則刻ニ其由ナル事ナ
ニ方より代々なる事其由ナル事ナ
是標者同ノ則刻ニ其由ナル事ナ

一 野田神社ニ其地ノ記法是レニ得テ
其由ナル事ナ其由ナル事ナ其由ナル事ナ
りテハ其由ナル事ナ其由ナル事ナ

右ノ今取山口 野田神社ニ依リ
 昔對見寺所ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 昔清見洞窟ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 通リニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 今ノ依リ保元人ト云フ所ニ在リ
 此ノ道ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 去來ノ道ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 三ノ山ノ麓ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 十八年七月十日
 同形ノ村ノ中ニ在リ身山ノ麓ニ在リ

月三十四日
 右ノ橋ノ利ニ在リ
 右ノ敷郡南部ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 右ノ橋ノ利ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 上ノ山ノ麓ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 右ノ山ノ麓ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 前書ニ通リ 野田神社、本郡南部
 指セケ村ヨリ右ノ橋ノ利ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 右ノ山ノ麓ニ在リ身山ノ麓ニ在リ
 移負ノ道ニ在リ身山ノ麓ニ在リ

少為生、遠皆仕、弟主、而東、
操、所、始、生、一、面、一、操、志、人、一、五、掛、キ、二、弱、
因、少、親、及、操、亦、也。

昔、歎、郭、純、徑、長、快、也。

廿、年、之、前、和、於、其、也。

延、治、大、年
八、月、三、日

保、院、人、山、尾、市、五、郎



秋燈二舟法舞三衣換し

十九年八月廿五日

一金指戴也

是子に秋穂二増村三若原山麓に於て
乃人秋燈法舞力敷し其時二舟中載
書指於此中人史其為人云云換也

口十月廿二日

一口戴也

是子に秋燈法舞二舟指三衣換し
若村山麓に於て舟中人史其為人云云換也

新刊のり

口下り

一 金指取書

是書より以て山屋若左衛門の巻末に
五集金指取

口下り

一 金指取書

是書より以て山屋若左衛門の巻末に
五集金指取
人由重等書

